

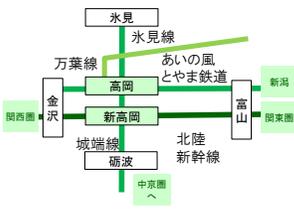
歴史建造物の活用×コンパクトシティ

～歴史・文化を築き上げた市街地に人が集い、楽しめる空間を創出～

魅力



公共交通網の拠点



課題

中心市街地の人口密度低下
商店街の活力低下
空き店舗・駐車場の増加



居住誘導区域図



都市機能 まち歩きを楽しめる空間の創出

- 中心市街地の空き店舗・空き地での開業希望者支援 (店舗改装・家賃補助・経営指導等)
- 歴史的な建造物の保存・活用 (商業施設・観光施設の開業支援等)
- 空き家・空き地情報を市ホームページで公開するとともに登録を推奨



【山町筋】町民文化の情報発信・交流拠点

元・明治創業の文房具屋

地元企業が土地・建物を取得。地元名士・建築家等が立ち上げた(株)町衆高岡がテナント管理・年中行事にちなむイベント等を企画。
→レトロモダンな洋風建築と蔵で8店舗が開業
地域住民が山町筋に集うきっかけや伝統産業の発信拠点に

- 中心市街地等にて50店舗が新規開業 (R3目標)
- 公示地価の維持・上昇へ

居住誘導 歴史ある市街地への居住を誘導

- 中心市街地における近隣住民の土地取得を補助
- 居住誘導区域内における特に子育て世代、UIターン世帯の住宅取得を補助



【幸町】2軒空き家を除却
市の隣地購入・老朽解体補助支援を組み合わせ、2軒長屋の空き家を除却



【金屋町】歴史的建造物でのお試し居住
NPO金屋町元気プロジェクトが運営(2018年～)
町内で3年間で4件の移住マッチングをサポート



【博労町】多機能を有するコミュニティ拠点

元・文房具・駄菓子屋

自治会(地縁団体)が土地及び建物を取得し、サロンを整備
→地域住民が集う場となり年157回のイベントが開催
伝統行事の拠点、災害時の拠点としても機能
地域活動に多世代が関与、拠点近辺で移住者が増加傾向

- 居住誘導区域内の人口密度を40人/ha(H27)→40人/ha(R17目標)
- 高齢者の日常生活における移動コストを年1億円削減

まちづくりの担い手

ワークショップやリノベーションスクール開催など、民間主体のまちづくりを実施

市民

専門家

研究機関

廃城後、400年にわたり町の繁栄を支える高岡商人
自治会・地元企業・地元名士が積極的に関与。

高岡市空き家活用推進協議会
宅建協会、建築士会、大学、富山県及び高岡市などで構成され、課題解決への知識やノウハウを提供。

大学(東京工業大学、富山大学等)
学生が住民・行政等と連携し、歴史・文化の保存継承、住民とのワークショップ、空き家活用による若者のまちなか居住の促進、街の魅力発信などに取り組む。

公共交通を利用して暮らし続けられるまちづくり

- 公共交通網の維持・充実 (運行ダイヤ変更等による路線間の接続性向上、バス路線再編等)
- 公共交通不便・空白地域の改善 (市民協働型の公共交通システム※導入支援、運行補助等)
※地域バス(地域住民で特定非営利活動法人を設立しバスを運行)や地域タクシーなど

居住誘導区域内の公共交通人口カバー率

91%(H30)→100%(R17目標)